

世界中の研究者が語る、  
科学の世界

JSPS 日本学術振興会



2023年度

サイエンスダイアログ

## サイエンス・ダイアログとは？

日本学術振興会(学振)のフェローシップ制度により来日し、各地の大学・研究機関で研究をしている外国人研究者(フェロー)有志を、近隣の高等学校等に講師として派遣し、自身の研究や出身国に関する講義を英語で行うことで、参加する生徒の研究への関心及び国際性への理解を深めることを目的とするプログラムです。



講師は、学振のフェローシップ制度によって、幅広い審査を経て世界各国から来日し、最先端の学術研究に携わっている優秀な研究者です。



### 申込締切

参加を希望される場合は、下記期間内にお申し込みください。(締切厳守)

<b>1学期開催分申込(2023年4月～8月)</b>
2023 2月13日 Mon 17:00締切
<b>2学期開催分申込(2023年9月～12月)</b>
2023 5月8日 Mon 17:00締切
<b>3学期開催分申込(2024年1月～3月)</b>
2023 8月28日 Mon 17:00締切

全国で約210校の学校が参加しています。参加した生徒は約60,000人上っています。授業後のアンケートで「再度講義を聴きたい」と回答した生徒は全体の約90%と高い満足度を誇ります。

### 実務件数の推移 ※2017年度より1校につき年間3件までと制限

2004年度	3
2014年度	196
2015年度	201
2016年度	198
2017年度	146
2018年度	137
2019年度	135
2020年度	77(オンライン含む)
2021年度	108(オンライン含む)

お申し込みの際は、必ず下記 Web サイトに掲載の「実施要領」をご一読ください。

- 打ち合わせ**  
1 学校から参加の先生に、講師の連絡先をお伝えします。  
参加の先生から講師に連絡を取り、両者にて講義内容や必要な機材などについて打ち合わせを行ってください。
- 受講料**  
2 講義実施後に、学振から講師及び講義補助者に受講料を支払います。  
受講料は学振の規定に基づいて算出します。

**WEB サイトのご案内**  
サイエンス・ダイアログWebサイト(日本語)  
<https://www.jsps.go.jp/j-sdialogue/index.html>  
英語対応に切り替えたい場合は、必要資料のダウンロードができます。  
申込書/報告書、アンケート様式/サンプル(英文(講師側)の選別用)

## 独立行政法人 日本学術振興会

国際統括本部国際企画部 人物交流課  
〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1

お電話でのお問い合わせ メールでのお問い合わせ  
☎ 03-3263-1730 ✉ [sdialogue@jps.go.jp](mailto:sdialogue@jps.go.jp)

## 日本学術振興会 (JSPS) とは？

文部科学省所管の独立行政法人で、日本の学術研究の振興を担う機関です。  
博士号取得前後の外国人研究者に対し、日本での研究を行うためのフェローシップを提供しています。



その他こんな講義が行われています！

**Kenya**  
**名古屋大学** X **ケニア**  
 Africa's Climate, Seasons, Environments and Rice Crop Improvement for enhanced food production

**Canada**  
**所帯大学** X **カナダ**  
 Investigating climate change in the past and present

**Thailand**  
**静岡大学** X **タイ**  
 Microorganisms in our daily life

**China**  
**東北大学** X **中国**  
 Introduction of Engineering Science and Its Role in Aircraft Engines



**講義例#1** 2022年4月 お茶の水女子大学附属高等学校  
**講師** Dr. Chobe Salhani 東京大学(フランス)  
**テーマ** Material Science a look at physics at the nanoscale

希望者 20 名が参加しました。講義について、メールにてこちらの要望をお知らせし、事前に当日の内容及び講義のタイトルなどを教えていただきました。

物理や電子工学の専門用語が多く登場する難しい内容ではあったものの、生徒たちは熱心に聞き入り、積極的に英語で質問をしていました。専門的な研究のお話をその道のプロの研究者から英語で聞くことができたのは、とても価値のあることで、英語を使って講義を聞くという体験をしたこと自体に意味があったと考えています。さらに英語学習を努力しようという意欲づけを高めることもできたと思います。

**講義例#2** 2022年7月 滋賀県立彦根県高等学校  
**講師** Dr. Nora CARLSON 京都大学(アメリカ)  
**テーマ** How Birds Communicate

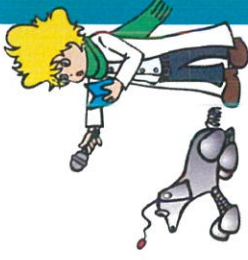
理分科、また理分科を希望する計 51 名の生徒が参加しました。身近な野鳥が、同種族間または異種族間でどのようにコミュニケーションをとっているかについてどの講義で、鳥の鳴き声の音声をスピーカーから流してくださったので、イメージしなから受講することができました。また、考えで参加するクイズも用意してくださったので、英語が苦手な生徒も興味を持って参加することができたようです。英語も研究内容も難しかったかも知れませんが、これからの学習や、大学での研究、留学への意欲づけになったと考えます。



**参加校からのメッセージ**  
 兵部京川(西條台高等学校 (兵庫県)) 山本 和也先生  
 本校では、総合理数コースの生徒が毎年各学年1回ずつ講義を受けています。講師の先生からご自身の研究内容を英語で語っていただくのですが、専門的な内容だけでなく、出身国のことについて触れたり、生徒たちの様子に合わせて写真や図を交えてゆくり説明していただいたり、英語に苦手意識がある生徒にもわかりやすく話してくれました。この講義をきっかけに英語をもっと勉強したい、専門的な研究がしたい、海外で学んでみたいと思う生徒が増えてくれればと思います。今後とも実施していきたいと考えています。



**参加校からのメッセージ**  
 兵部京川(西條台高等学校 (兵庫県)) 山本 和也先生  
 本校では、総合理数コースの生徒が毎年各学年1回ずつ講義を受けています。講師の先生からご自身の研究内容を英語で語っていただくのですが、専門的な内容だけでなく、出身国のことについて触れたり、生徒たちの様子に合わせて写真や図を交えてゆくり説明していただいたり、英語に苦手意識がある生徒にもわかりやすく話してくれました。この講義をきっかけに英語をもっと勉強したい、専門的な研究がしたい、海外で学んでみたいと思う生徒が増えてくれればと思います。今後とも実施していきたいと考えています。



from students

生徒から

- Voice#1** 外国の方から地理で学んだ地形や気候の特徴などについて改めて聞いて良かった。自分には英語で話せることができて、自分も話せるようになった。
- Voice#2** 英語でも理系の内容だと理解できず、理系は共通なんだなと気づいた。そして今後の勉強や研究へのモチベーションとなりそう。
- Voice#3** 正直、知らない単語が沢山あり、スピードも速く感じたが、自分のリスニングで聞かされた自分の成長を感じることができ、自信に繋がった。
- Voice#4** 講師さんに分からないところを丁寧に教えて頂いてとても助かった。堅苦しい雰囲気ではなく、楽しい雰囲気を感じることができて、自信に繋がった。
- Voice#5** 女性の研究者の貴重なお話を聞くことができ、とても良い機会になった。

from the teacher

先生から

- Voice#1** 高等学校の教科とは異なり、すべての学習が徹底できていることが確認できたようである。また、どんな研究をするにしても、国際性が表裏であり、自身のこと、自国のことを多言語で表現することが求められる時代になっていることを再認識し始めることができた。何より、どの生徒にも英語をもっと勉強して、実際に使ってもらいたいというモチベーションの向上がみられた。
- Voice#2** 講義の最後の講師から生徒へのメッセージは、進路の選択において自身を見つめ直すきっかけを与えてくれたと感じた。「あなたの情熱は何か」「情熱はあなたの将来を決定する」「成功する方法は誰も教えてくれない」「自身で世界を体験し、探究しなげなければならない」という言葉は、将来、何かを成し遂げようとする生徒にとっても、心に響く言葉になったのではないかと思う。
- Voice#3** Very nice program for connecting or linking higher education and research activities with younger learners in secondary schools. It's a good strategy for creating interest in scholarly activities to young learners and broadening their minds to future aspirations.
- Voice#4** Hearing about different countries and experiences can help students to reflect on their own lives and studies. Learning about research can also motivate their own studies.

2022年度サイエンス・ダイアログ参加者からの声

from the lecturer

講師から

- Voice#1** 講義の最後の講師から生徒へのメッセージは、進路の選択において自身を見つめ直すきっかけを与えてくれたと感じた。「あなたの情熱は何か」「情熱はあなたの将来を決定する」「成功する方法は誰も教えてくれない」「自身で世界を体験し、探究しなげなければならない」という言葉は、将来、何かを成し遂げようとする生徒にとっても、心に響く言葉になったのではないかと思う。
- Voice#2** Very nice program for connecting or linking higher education and research activities with younger learners in secondary schools. It's a good strategy for creating interest in scholarly activities to young learners and broadening their minds to future aspirations.
- Voice#3** Hearing about different countries and experiences can help students to reflect on their own lives and studies. Learning about research can also motivate their own studies.

